

米倉教公の月間為替市場見通し

3月号

『日米欧金融政策に注意！』

ドル/円予想レンジ 111.00 - 115.50 円

ドル/円の3月勝敗表

3月の相場	始値	終値	値幅	変動率	陽線・陰線
1995年	96.62	86.50	-10.12	-10.47%	陰線
1996年	105.21	107.32	2.11	2.01%	陽線
1997年	120.30	123.80	3.50	2.91%	陽線
1998年	126.05	132.92	6.87	5.45%	陽線
1999年	119.36	118.85	-0.51	-0.43%	陰線
2000年	110.16	102.68	-7.48	-6.79%	陰線
2001年	117.32	126.13	8.81	7.51%	陽線
2002年	133.50	132.74	-0.76	-0.57%	陰線
2003年	118.20	117.96	-0.24	-0.20%	陰線
2004年	109.02	104.21	-4.81	-4.41%	陰線
2005年	104.58	107.13	2.55	2.44%	陽線
2006年	115.77	117.75	1.98	1.71%	陽線
2007年	118.50	117.62	-0.88	-0.74%	陰線
2008年	103.61	99.67	-3.94	-3.80%	陰線
2009年	97.73	98.98	1.25	1.28%	陽線
2010年	88.85	93.45	4.60	5.18%	陽線
2011年	81.77	83.14	1.37	1.68%	陽線
2012年	81.13	82.80	1.67	2.06%	陽線
2013年	92.54	94.19	1.65	1.78%	陽線
2014年	101.46	103.22	1.76	1.73%	陽線
2015年	119.70	120.09	0.39	0.33%	陽線
平均			0.47	0.41%	13勝8敗

★3月は終わってみると円安になることが多い

1995年以降の過去21年間のドル/円では、13勝8敗と陽線引け（円安）となることが多い。一方、値幅での平均値は47銭の円安となっている。本邦企業の本決算があり、海外で稼いだ資金のレパトリが入ることから円高のイメージが強いが、3月の始値から終値だけをみると円安となることが多いことが分かる。また、アベノミクスが始まる前の2009年以降7年連続で陽線引けとなっている。過去7回の円安時では平均1円81銭となっている。3月1日の始値に足した価格が終値の目標値となる。

3月は中旬前後までは本邦企業決算のレパトリが増える一方で、下旬に掛けては生保や金融機関などの来期に向けた海外投資が始まるのが要因と思われる。

※この勝敗表は単純に終値から始値を引いた数値となっている。また陽線を勝ち、陰線が負けとした。



★ドル/円月足では短期的な戻りは売りシグナル

一目均衡表月足チャートでは、基準線となる113.29円が下値支持ラインとなっている。2月は一時的に110.96円と基準線を下抜けしたが、辛うじてドルの暴落は免れた。ただ、MACD（パラメータ：12、26、9）では、ゼロラインの上方からデットクロスしている。また、ストキャスティクスロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、%Kと%Dがかい離幅を拡大しながら、共に下向きとなっている。中長期的な観点からは、短期的なドルの戻りは売りという状況だ。過去の星取りでは、3月は円安になりやすい。しかし、これだけオシレータが売りシグナルを出していることから、今年の3月は円高回帰に注意する必要がある。114.87円には日足のダブルボトムのネックラインがある。このネックラインを上回ってくると、一旦上昇する可能性は高いが、そこが売りのタイミングになる。

★3月の注目イベント

- 03月01日：RBA理事会、中国1月製造業・非製造業PMI、中国1月財新メディア製造業PMI、**米2月ISM製造業景況指数**、加第4四半期GDP、米大統領選挙・予備選（スーパーチューズデー）
- 03月02日：豪第4四半期GDP、米2月ADP全国雇用報告、
- 03月03日：**米2月ISM非製造業景況指数**、
- 03月04日：**米2月雇用統計**、米1月貿易収支
- 03月05日：中国第12期全国人民代表大会（全人代）第4回全体会議開幕。中国2016年GDP見通し公表
- 03月08日：日本第4四半期GDP・2次速報と1月国際収支、中国2月貿易収支、ユーロ圏第4四半期GDP改定値
- 03月09日：加中銀政策金利公表
- 03月10日：NZ中銀政策金利公表、**ECB理事会**
- 03月11日：日経平均・メジャーSQ、中国2月小売売上高・鉱工業生産・固定資産投資、
- 03月13日：米加夏時間移行
- 03月15日：**日銀金融政策決定会合結果公表**、米2月小売売上高・生産者物価指数
- 03月16日：英2月雇用統計、米2月消費者物価指数、**米FOMC政策金利公表（FRB議長記者会見）**
- 03月17日：NZ第4四半期GDP、スイス中銀政策金利公表、英MPC、EU首脳会議（18日まで）、米第4四半期国際収支
- 03月18日：日銀金融政策決定会合議事録（1月28-29日分）、NYダウ・メジャーSQ
- 03月24日：日銀金融政策決定会合「主な意見」公表（3月14-15日分）、トルコ中銀政策金利発表
- 03月25日：米第4四半期GDP・確報
- 03月29日：日本株3月末決算企業権利落ち
- 03月31日：日本企業決算期末、英第4四半期GDP・確報、ユーロ圏2月消費者物価指数

★まとめ

今月は10日にECB定例理事会が開催され追加緩和観測期待が強まる。また、FOMC前の15日に日銀政策決定会合が開催され、一部にはマイナス金利幅の拡大などの期待もある。しかし、日銀によるマイナス金利導入後は賛否両論あることで、1月に続いてマイナス金利幅を拡大するという事は现阶段では難しいと思われる。また、量的・質的追加緩和は现阶段で実施することで、撃ちつくし感が広がる可能性がある。さらに、G20で、為替の競争的切り下げを回避するという従来の立場があらためて声明に盛り込まれただけに、日銀は一段の追加緩和に動きづらく、日銀は今回の政策決定会合で現状維持となる可能性が非常に高い。本命は16日のFOMCだが、2月下旬からの経済指標に良好な結果となるものが多く、僅かにではあるが3月利上げ観測も強まってきた。そう言う意味では、1日の2月ISM製造業景況指数、3日ISM非製造業景況指数、4日2月米雇用統計の結果次第では、FOMCの追加利上げが現実的視野に入る可能性が高い。一方で米国3月に利上げすることで、ドル高や中国発の世界景気減速の影響が米国にも波及するような懸念もあり、3月利上げが後退し米長期金利の低下を招きドル売りが再燃するリスクも残る。また、不安定な原油価格が再び下落傾向となると、リスク回避の株安・円高となる可能性もあり、当分の間は米経済指標の結果や原油価格の動向には警戒が必要である。3月相場も引き続き荒れ相場となりそうだ。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。